

令和元年度(2019 年度)

病害虫発生予察情報 第15号

7月月報

北海道病害虫防除所 令和元年(2019年)8月19日

<http://www.agri.hro.or.jp/boujoshou/>

Tel:0123(89)2080・Fax:0123(89)2082

I. 気象概況 札幌管区气象台発表 北海道地方気象速報

－『高温・少雨・寡照』 中旬は太平洋側で記録的寡照、月末は各地で高温続く－

この期間の天気は、上旬の前半は低気圧や気圧の谷の影響で雨の降った所が多かった。後半は高気圧の張り出しの中となって日本海側を中心に晴れたが、オホーツク海側では湿った気流の影響で曇った日が多く、オホーツク海側の上旬の日照時間はかなり少なかった。中旬は気圧の谷や湿った気流の影響で曇った日が多く、太平洋側の日照時間は記録的に少なかった。下旬の天気は短い周期で変わった。月末は暖かい空気が流れ込み、30～31日は日最低気温が観測史上最も高い値となった地点もあった。気温は中旬と下旬は平年より高く、月平均気温も高かった。降水量は上旬は平年より少なく、月降水量も少なかった。日照時間は中旬は平年より少なく、月間日照時間も少なかった。

上旬：1～2日は低気圧を含む気圧の谷の影響で全道的に雨が降った。3日は低気圧を含む気圧の谷の影響で雨の降った所があったが、太平洋側では晴れた。4日は低気圧を含む気圧の谷の影響で太平洋側西部を中心に雨の降った所があったが、日本海側北部では晴れた所が多かった。日降水量は上川町層雲峡で55.5mmなど。5日は上空に寒気を伴った気圧の谷の影響で、大気の状態が不安定となり雨の降った所が多かった。日降水量は上川町層雲峡で53.5mmなど。6日は高気圧の張り出しの中となって日本海側を中心に晴れたが、湿った気流の影響によりオホーツク海側や太平洋側では曇って雨の降った所もあった。7～10日は高気圧の張り出しの中となって広い範囲で晴れたが、湿った気流の影響によりオホーツク海側や太平洋側では曇って雨の降った所もあった。

中旬：11日は高気圧に覆われて日本海側やオホーツク海側を中心に晴れた。12日は低気圧が接近して日本海側南部や太平洋側西部を中心に雨が降った。日降水量は登別市札内町で77.0mmなど。13～14日は低気圧を含む気圧の谷の中となって全道的に雨が降り、13日は大雨となった所もあった。日降水量は13日に白老町高砂町で109.0mmなど。15～16日は気圧の谷や湿った気流の影響により広い範囲で曇って雨の降った所もあったが、晴れた所もあった。17日は高気圧の張り出しの中となって日本海側やオホーツク海側で晴れたが、太平洋側を中心に湿った気流などの影響で雨の降った所も多かった。18日は気圧の谷の中となって太平洋側を中心に雨の降った所があったが、オホーツク海側などでは晴れた所もあった。19日は高気圧の張り出しの中となって日本海側北部やオホーツク海側では晴れたが、気圧の谷の影響で太平洋側を中心に雨の降った所が多かった。日降水量は音威子府で59.5mmなど。20日は気圧の谷の影響により広い範囲で雨が降ったが、日本海側南部では晴れた所もあった。日降水量は滝上で50.5mmなど。

下旬：21～22日は高気圧の張り出しの中となって日本海側やオホーツク海側を中心に晴れたが、湿った気流の影響により太平洋側では雨の降った所が多かった。23～24日は低気圧を含む気圧の谷の中となって雨の降った所が多かったが、オホーツク海側南部では晴れた。日降水量は23日に白老町高砂町で62.0mmなど。25日は気圧の谷の中となって大気の状態が不安定となり、雨の降った所が多かった。日降水量は上士幌町ぬかびら源泉郷で58.0mmなど。26日は前線が停滞して全道的に雨が降り、大雨となった所もあった。日降水量は神恵内で155.5mmなど。27日は前線が通過して広い範囲で雨が降った。日降水量は豊富で79.0mmなど。28日は気圧の尾根の中となって概ね晴れたが、日本海側では雨の降った所もあった。29日は気圧の尾根の中となってオホーツク海側や太平洋側東部を中心に晴れたが、大気の状態が不安定となって日本海側や太平洋側西部では雨の降った所が多かった。日降水量は松前で87.0mmなど。30日は高気圧の張り出しの中となって晴れた所が多かったが、前線などの影響で雨の降った所もあった。31日は気圧の谷の影響で日本海側を中心に曇った所が多く、雨の降った所もあったが、太平洋側東部では晴れた。

気候表

	気温偏差℃	階級	降水比%	階級	日照比%	階級
北海道22地点平均	+1.2	高	68	少	88	少
日本海側10地点平均	+1.2	高	67	少	97	並
オホーツク海側4地点平均	+1.5	高	64	少	85	並
太平洋側8地点平均	+1.0	高	71	少	79	少

注) 階級分布図の気温・降水量・日照時間は、概ね「高(多)」、「並」、「低(少)」の3段階で表示します。各階級の幅は、平年値の作成期間(1981～2010の30年間)における各階級の出現率が1:1:1となるように決めてあります。
なお、平年値作成期間内の上位、下位10%の範囲に入る場合は「か高(多)」、「か低(少)」、「かーかなり」で表します。

Ⅱ. 病害虫発生概況

A. 水稻

1. いもち病（葉いもち） 発生期 やや遅 発生量 やや少

予察田の「きらら397」における葉いもちの本田初発期は、北斗市では平年より早く、岩見沢市では平年よりやや遅く、比布町では平年より遅かった。発生量は、北斗市では平年よりやや多かったが、岩見沢市、比布町では平年よりやや少なかった。

一般田における巡回調査によると、7月6半旬現在いずれの地点においても発生は認められていない。

予察田におけるいもち病の初発期

地点	品種名	取り置き苗初発期		本田初発期		平年数
		本年	平年	本年	平年	
岩見沢市	きらら397	6月19日	6月28日	7月25日	7月20日	8
	ななつぼし	6月19日	6月28日	7月25日	7月18日	8
比布町	きらら397	6月24日	6月21日	7月26日	7月12日	10
	ななつぼし	6月24日	6月27日	7月26日	7月12日	3
北斗市	きらら397	6月13日	6月21日	7月11日	7月17日	10

注)各予察田の窒素施用量は慣行栽培の5割増

予察田における葉いもち発生状況

地点	品種名	発病度						平年数
		7月2半旬		7月4半旬		7月6半旬		
		本年	平年	本年	平年	本年	平年	
岩見沢市	きらら397	0	0.3	0	2.9	3.5	12.9	8
	ななつぼし	0	1.0	0	8.0	7.0	22.4	8
比布町	きらら397	0	2.3	0	12.0	11.0	27.5	10
	ななつぼし	0	0	0	8.3	16.0	21.0	3
北斗市	きらら397	0	0.2	5.0	5.0	23.0	12.8	10

注)各予察田の窒素施用量は慣行栽培の5割増

一般田におけるいもち病巡回調査結果

普及センター		地点数	発病株率(%)				普及センター		地点数	発病株率(%)				
			7月3半旬		7月6半旬					7月3半旬		7月6半旬		
			本年	前年	本年	前年				本年	前年	本年	前年	
空知	本所	6	0	0	0	0	渡島	本所	3	0	0	0	0	
	南東部	2	0	0	0	0		檜山	本所	2	0	0	0	0
	南西部	3	0	0	0	0			北部	2	0	0	0	0
	中空知	4	0	0	0	0	上川	本所	8	0	0	0	0	
	北空知	7	0	0	0	0		富良野	2	0	0	0	0	
石狩	本所	5	0	0	0	0		大雪	4	0	0	0	0	
	北部	7	0	0	0	0		士別	2	0	0	0	0	
後志	本所	4	0	0	0	0		名寄	2	0	0	0	0	
胆振	東胆振	4	0	0	0	0	留萌	本所	5	0	0	0	0	
日高	西部	3	0	0	0	0		南留萌	3	0	0	0	0	

2. ニカメイガ 発生期 やや早 発生量 やや多

予察田のフェロモントラップにおける成虫の初発期は、長沼町で平年より早かった。誘殺数は長沼町で平年より多かった。北斗市では誘殺が認められていない。

予察田におけるフェロモントラップによるニカメイガの誘殺数

月・半旬	長沼町		北斗市	
	本年	平年	本年	平年
7月1半旬	1.2	3.6	0	1.1
2半旬	5.3	7.5	0	1.2
3半旬	32.7	19.8	0	1.4
4半旬	34.3	10.9	0	2.9
5半旬	37.7	17.6	0	2.1
6半旬	16	13.4	0	2.9
初発期	6月23日	6月30日	-	7月10日
平年数	7		10	

3. ウンカ類 発生期 ヒメトビウンカ(第2回)：やや早、セジロウンカ：やや遅 発生量 並

予察灯におけるヒメトビウンカ第2回成虫の初発期は、比布町、北斗市で平年より早く、長沼町では平年よりやや遅かった。予察灯による成虫誘殺数は、いずれの地点でも平年より多かった。予察田におけるすくい取りによる成虫捕獲数は、いずれの地点でも平年並であった。

予察灯におけるセジロウンカの初発期は、比布町、北斗市では平年よりやや遅く、長沼町では平年より遅かった。予察灯による成虫誘殺数は、比布町で平年より多く、北斗市では平年よりやや少なかった。長沼町では誘殺が認められなかった。水田すくい取りによる成虫捕獲数は、比布町で平年並で、北斗市では平年よりやや少なかった。長沼町では捕獲が認められなかった。

一般田における巡回調査によると、ヒメトビウンカ成幼虫の水田すくい取りによる捕獲数は、全 78 調査地点中最大でも 17 頭であり、吸汁害が発生する密度(成虫：1,800 頭、または幼虫：900 頭)に達した地点は認められなかった。

ヒメトビウンカ成虫の予察灯誘殺数および予察田における水田すくい取り数

月・半旬	予察灯誘殺数						水田すくい取り数 (20回振り×5日分換算値)					
	長沼町		比布町		北斗市		長沼町		比布町		北斗市	
	本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年
7月1半旬	0	0.2	0	0.8	1	0.4	1.3	0.4	0	0.6	5	0
2半旬	0	1.9	1	4.1	0	0.3	5	0.2	0	0.5	0	0.3
3半旬	36	9.3	0	11.1	1	0.7	8.8	0.7	20	4.4	2.5	1.0
4半旬	121	70.1	80	87.9	0	5.3	1.3	2.2	0	29.4	2.5	1.8
5半旬	15	100.6	502	251.9	25	6.2	7.5	14.3	25	60.8	5	3.0
6半旬	864	252.1	9072	2483.1	44	9.4	3.8	12.6	175	125.0	5	3.5
初発期	7月18日	7月13日	6月26日	7月12日	7月12日	7月20日						
平年数	10		10		10		7		10		10	

注) 初発期は第2回成虫

セジロウンカ成虫の予察灯誘殺数および予察田における水田すくい取り数

月・半旬	予察灯誘殺数						水田すくい取り数 (20回振り×5日分換算値)					
	長沼町		比布町		北斗市		長沼町		比布町		北斗市	
	本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年
7月1半旬	0	0	0	0	0	2.0	0	0	0	0	0	0.5
2半旬	0	0	0	0.1	0	0.0	0	0	0	0	0	1.3
3半旬	0	0	0	0.3	0	0.8	0	0	0	0.5	0	0
4半旬	0	0.8	0	0.3	0	5.1	0	0	0	0	0	1.8
5半旬	0	0.9	0	0.5	2	2.5	0	0.2	0	0	0	0.3
6半旬	0	2.7	60	11.7	11	20.9	0	0	5	0.5	2.5	7.3
初発期	8月2日	7月21日	7月29日	7月25日	7月25日	7月21日						
平年数	10		10		10		7		10		10	

巡回調査によるヒメトビウンカ成幼虫の水田すくい取り数(20回振り)

普及センター		地点数	7月6半旬	
			本年	前年
空知	本所	6	0.8	0
	南東部	2	0.5	0
	南西部	3	0.3	0
	中空知	4	0.5	0.5
	北空知	7	0.6	0.3
石狩	本所	5	0.8	1.4
	北部	7	0	0
後志	本所	4	4.5	3.0
胆振	東胆振	4	0	0
日高	西部	3	0	0

普及センター		地点数	7月6半旬	
			本年	前年
渡島	本所	3	0.7	1.3
檜山	本所	2	0	0
	北部	2	0	8.5
上川	本所	8	3.5	1.8
	富良野	2	4	17
	大雪	4	9.5	27.5
	士別	2	0	0
	名寄	2	0	0
留萌	本所	5	0	0.2
	南留萌	3	0	0

4. イネドロオイムシ 発生量 やや少

予察田における幼虫数は、長沼町で平年より多く、比布町および北斗市では平年より少なかった。被害率は、長沼町で平年より高く、北斗市および比布町では平年より低かった。

一般田における7月6半旬の巡回調査によると、全78地点において被害率は最大でも5%にとどまり、移植栽培で減収する被害率70%に達した地点はなかった。

予察田におけるイネドロオイムシの発生状況

月・半旬	水田見取り調査による幼虫数(25株あたり)						被害率(%)					
	長沼町		比布町		北斗市		長沼町		比布町		北斗市	
	本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年
7月1半旬	146	40.5	8	103.2	29	82.8	26.4	4.6	0.3	21.9	6.8	15.2
2半旬	164	61.3	13	49.4	17.5	73.8	28.8	8.5	0.6	22.7	6.7	32.2
3半旬	189	62.9	10	22.3	11	24.7	42.9	10.6	1.6	21.6	8.4	16.4
4半旬	66	52.6	8	8.3	11	11.5	24	11.1	2.2	21.2	7.6	29.2
5半旬	31	22.9	0	4.3	6	7.3	35.9	12.8	2.2	19.5	7.8	15.5
6半旬	4	1.7	1	2.3	3.5	1.8	34.5	8.5	1.8	21.2	7.9	22.9
平年数	7		10		10		7		10		10	

巡回調査によるイネドロオイムシの幼虫数および被害率

普及センター		地点数	幼虫数				被害率(%)	
			6月6半旬		7月3半旬		7月6半旬	
			本年	前年	本年	前年	本年	前年
空知	本所	6	2.7	0.8	5.8	3.8	0.5	1.6
	南東部	2	0	0	0	0	0	0
	南西部	3	0	0	2.3	0	0.3	0
	中空知	4	3.8	0.8	4.8	0.5	0.3	0
	北空知	7	4.1	0	0	0.4	0	0
石狩	本所	5	0.4	0	0.6	2.2	2.6	4.2
	北部	7	0	0	0	0	0	0
後志	本所	4	0	0.3	0	0	0	0.3
胆振	東胆振	4	0	0	0	1.5	0	0
日高	西部	3	0	0	0	4	0.7	2.7
渡島	本所	3	0	0	0	0	0	0
檜山	本所	2	0	0	0.6	0	0	0
	北部	2	0	0	0	0	0	0
上川	本所	8	0	0	0	0	0	0
	富良野	2	0	0	0	11	0	10
	大雪	4	0	0	0	0	0	0
	士別	2	0	0	0	0	0	0
	名寄	2	0	0	1	0	0	0
留萌	本所	5	0	0	0	0	0	0
	南留萌	3	0	0	0	0	0	0

注) 幼虫数は25株あたり

5. アカヒゲホソミドリカスミカメ(第2回)

発生期 早

発生量 多

<7月19日付け注意報第5号>

<8月2日付け注意報第7号>

予察灯による第2回成虫の初発期は、いずれの地点においても平年より早かった。予察灯による成虫誘殺数は、いずれの地点とも平年より多かった。予察田における水田すくい取り成虫数は、比布町で平年より多く、長沼町および北斗市では平年よりやや多かった。

一般田における7月6半旬の巡回調査によると、水田すくい取りによる発生モニタリングでの追加防除の基準である捕獲数2頭以上(「きらら397」の場合)となった水田は、全78調査地点のうち、空知、石狩、後志、胆振、上川、留萌地方の計29地点であった。

アカヒゲホソミドリカスミカメ成虫の予察灯誘殺数および予察田における水田すくい取り数

月・半旬	予察灯誘殺数						水田すくい取り数 (20回振り×5日分換算値)					
	長沼町		比布町		北斗市		長沼町		比布町		北斗市	
	本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年
7月1半旬	7	10.2	1	2.3	10	8.4	0	0	0	0	0	0.5
2半旬	4	29.3	5	1.3	3	9.3	0	0	0	0	2.5	0
3半旬	507	119.2	24	3.2	17	21.3	0	0	10	0	0	0
4半旬	874	215.1	76	6.5	42	76.2	2.5	0.9	20	0.5	0	0.5
5半旬	160	372.9	62	13.1	685	76.3	7.5	0.9	0	0.8	0	1.8
6半旬	1863	736.0	720	57.1	400	92.5	0	4.1	10	0.5	7.5	2.5
初発期	6月29日	7月7日	6月23日	7月13日	6月20日	7月12日						
平年数	10		10		10		7		10		10	

巡回調査によるアカヒゲホソミドリカスミカメ成虫の20回振りすくい取り数

普及 センター		地点 数	畦畔				水田	
			7月3半旬		7月6半旬		7月6半旬	
			本年	前年	本年	前年	本年	前年
空知	本所	6	1	0.6	3.7	0	1.5	0
	南東部	2	0	0	9.5	0	5.3	0
	南西部	3	1	0.3	0.7	1	1	0
	中空知	4	4.8	0.5	20	3.8	1.3	0.3
	北空知	7	0.6	0.3	0	0.6	0	0.1
石狩	本所	5	0	1.2	3.4	3	1.4	1
	北部	7	1.3	0	2.1	0.6	1.9	0.3
後志	本所	4	4	1.3	0.3	0.8	0.8	0.5
胆振	東胆振	4	0	0	2	0.3	0.8	0.3
日高	西部	3	0	0	0	0	0.7	0
渡島	本所	3	1	0	1.7	1	0.3	0.3
檜山	本所	2	0	0	1	0	0.3	0
	北部	2	0	1.5	0	0.5	0	0
上川	本所	8	3	0	2.8	0.1	2.1	0.8
	富良野	2	0	0	0	0.5	0.5	2.5
	大雪	4	3	1.8	2.8	0.5	7.0	0.8
	士別	2	0.5	0	2.5	0	5.0	0
	名寄	2	0	1	0	0	2.5	0.7
留萌	本所	5	0.6	0	1.2	0.2	2.0	0.2
	南留萌	3	1.3	0	0.7	2	1.3	0

6. フタオビコヤガ 発生量 少

予察灯による成虫誘殺数は、長沼町、比布町で平年より少なく、北斗市では誘殺が認められなかった。第2回幼虫による予察田の被害葉率は、長沼町で平年よりやや高く、比布町では平年より低かった。北斗市では被害が認められていない。

予察田におけるフタオビコヤガの発生状況

月・半旬	予察灯誘殺数						被害葉率(%)					
	長沼町		比布町		北斗市		長沼町		比布町		北斗市	
	本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年
7月1半旬	0	7.0	0	61.3	0	10.2	5.8	0.9	0	1.1	0	0.0
2半旬	0	13.7	0	61.7	0	16.0	4.9	1.2	0	1.1	0	0.1
3半旬	3	25.7	0	16.5	0	7.6	2.8	1.0	0.1	2.3	0	0.0
4半旬	0	3.4	0	3.6	0	0.7	2.4	2.2	0.1	3.8	0	0.0
5半旬	0	1.5	0	20.4	0	3.8	3.2	2.3	0	5.3	0	0.1
6半旬	0	16.2	36	223.4	0	18.5	4.2	4.1	0	6.7	0	0.2
平年数	10		10		10		7		10		10	

B. 秋まき小麦

1. 赤かび病 発生量 少

予察ほにおける主要品種「きたほなみ」での発生量は、訓子府町では平年並であったが、長沼町、芽室町では発生が認められなかった。発生菌種は、訓子府町で *Microdochium nivale* の割合が高かった。

予察ほにおける赤かび病発生状況

地点	品種名	病穂率(%)			病原菌別割合(%)			
		本年	平年	平年数	M.niv.	F.ave.	F.gra.	F.cul.
長沼町	チホクコムギ	0	11.3	10	—	—	—	—
	きたほなみ	0	5.7	9	—	—	—	—
芽室町	チホクコムギ	0	28.4	10	—	—	—	—
	きたほなみ	0	17.8	10	—	—	—	—
訓子府町	チホクコムギ	21.0	20.2	10	78.4	0	21.6	0
	きたほなみ	2.0	12.4	10	81.0	9.5	9.5	0

注) M.niv.: *Microdochium nivale* 、F.ave.: *Fusarium avenaceum* 、F.gra.: *F.graminearum* 、F.cul.: *F.culmorum*

2. アブラムシ類 発生量 少

予察ほにおけるムギヒゲナガアブラムシの発生量は、長沼町、訓子府町ともに平年より少なかった。ムギクビレアブラムシの発生量は、長沼町で平年より少なかった。訓子府町では発生が認められなかった。

予察ほの秋まき小麦におけるアブラムシ類の寄生虫数(25穂あたり)

月・半旬	ムギヒゲナガアブラムシ				ムギクビレアブラムシ			
	長沼町		訓子府町		長沼町		訓子府町	
	本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年
7月1半旬	1	3.5	4	31.6	0	3.4	0	10.8
2半旬	0.5	1.5	0	12.1	9	4.4	0	5
3半旬	0	1.0	1	5.3	0	4.9	0	2
4半旬	0	0	0	5	0	0.5	0	2.5
平年数	10		10		10		10	

注) 25穂あたりの寄生虫数

C. 春まき小麦

1. 赤かび病 発生量 少

予察ほの「春よ恋」における発生量は、長沼町では平年より少なく、比布町では発生が認められなかった。発生菌種は、長沼町で *Fusarium graminearum* が主体であった。

予察ほにおける赤かび病発生状況

地点	品種名	病穂率(%)			病原菌別割合(%)			
		本年	平年	平年数	M.niv.	F.ave.	F.gra.	F.cul.
長沼町	春よ恋	1.8	34.3	10	0	0	100	0
比布町	春よ恋	0	10.0	4	-	-	-	-

注)M.niv.: *Microdochium nivale*、F.ave.: *Fusarium avenaceum*、F.gra.: *F.graminearum*、F.cul.: *F.culmorum*

D. 豆類

1. べと病（大豆） 発生期 並 発生量 やや少

長沼町の予察ほにおける初発期は平年並で、発生量は平年よりやや少なかった。

予察ほにおける大豆のべと病発生状況

地点	品種名	初発期		発病度						平年数
				7月2半旬		7月4半旬		7月6半旬		
		本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年	
長沼町	トヨムスメ	7月13日	7月14日	0	3.3	0.5	5.9	5.0	14.6	10

2. 菌核病（菜豆） 発生期 並 発生量 並

芽室町の予察ほにおける初発期は平年並であった。発生量は平年並であった。7月6半旬の一般ほにおける巡回調査によると十勝地方で発生が多く認められている。

予察ほにおける菌核病の発生状況

地点	品種名	初発期		発病度				平年数
				7月4半旬		7月6半旬		
		本年	平年	本年	平年	本年	平年	
芽室町	大正金時	7月24日	7月23日	0	0.1	4.5	4.8	10

一般ほにおける菌核病巡回調査結果

普及センター		地点数	発病株率(%)		普及センター		地点数	発病株率(%)	
			7月6半旬					7月6半旬	
			本年	前年				本年	前年
胆振	本所	1	0	0	十勝	本所	3	0	0.5
上川	士別	1	0	0		東部	6	0.7	0
網走	美幌	2	0	0		東北部	4	11.0	0
						北部	3	0	0
						西部	3	0	0

3. 灰色かび病（小豆・菜豆） 発生期 やや遅 発生量 並

長沼町の予察ほ（小豆）における初発期は平年より遅かった。芽室町の予察ほ（菜豆）における初発期は平年並で、発生量は平年並だった。一般ほにおける7月6半旬の巡回調査によると、十勝地方の菜豆で発生が多く認められている。

予察ほにおける灰色かび病発生状況（小豆）

地点	品種名	初発期		発病度				平年数
				7月4半旬		7月6半旬		
		本年	平年	本年	平年	本年	平年	
長沼町	しゅまり	8月10日	8月2日	0	0	0	0.2	10

予察ほにおける灰色かび病発生状況(菜豆)

地点	品種名	初発期		発病度				平年数
				7月4半旬		7月6半旬		
		本年	平年	本年	平年	本年	平年	
芽室町	大正金時	7月20日	7月21日	0	0.3	9.3	8.7	10

小豆の一般ほにおける灰色かび病巡回調査結果

普及センター		地点数	発病株率(%)		普及センター		地点数	発病株率(%)	
			7月6半旬					7月6半旬	
			本年	前年				本年	前年
空知	本所	0	0	0	留萌	本所	1	1.0	0
石狩	本所	1	0	0	網走	本所	2	0	0
後志	本所	2	0	0		網走	2	1.0	0
胆振	本所	3	0	0		美幌	3	0	0
	東胆振	3	1.7	0	十勝	本所	4	0	0.3
檜山	本所	2	0	0		東部	6	0	0
	北部	1	0	0		東北部	4	0	0
上川	富良野	1	0	0		北部	3	0	0
	大雪	3	0	0		西部	3	0	0
	士別	1	0	0		南部	3	0	0

菜豆の一般ほにおける灰色かび病巡回調査結果

普及センター		地点数	発病株率(%)		普及センター		地点数	発病株率(%)	
			7月6半旬					7月6半旬	
			本年	前年				本年	前年
胆振	本所	1	0	0	十勝	本所	3	21.7	0.5
上川	士別	1	0	0		東部	6	3.7	0
網走	美幌	2	0	0		東北部	4	1.8	0
						北部	3	2.0	0
						西部	3	2.5	0

4. アズキノメイガ(小豆)

発生期 早 発生量 並

予察灯における成虫の初発期は、いずれの地点においても平年より早かった。7月の誘殺数は、訓子府町および芽室町で1頭と平年並だった(平年:訓子府町1.2頭、芽室町1.6頭)。長沼町では1頭と平年よりやや少なかった(平年:3.1頭)。

予察灯におけるアズキノメイガ雄成虫の初発期

長沼町		芽室町		訓子府町	
本年	平年	本年	平年	本年	平年
6月9日	7月7日	7月5日	7月16日	6月21日	7月7日

5. 食葉性鱗翅目幼虫(大豆・小豆)

発生量 並

予察ほにおける被害程度は、大豆では訓子府町で平年並で、長沼町では平年よりやや低かった。小豆では長沼町および訓子府町で平年並だった。

予察ほの大豆および小豆における食葉性鱗翅目幼虫の被害程度

月・半旬	大豆				小豆			
	長沼町		訓子府町		長沼町		訓子府町	
	本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年
7月1半旬	1	13.2	8	5.8	1	10.4	0	3.3
2半旬	1	15.7	10	8.9	0	11.7	0	4.4
3半旬	4	24.4	14	12.9	0	14.0	0	6.7
4半旬	8	27.3	22	18.2	1	15.6	3	9.8
5半旬	18	35.0	24	24.1	4	16.0	13	11.3
6半旬	27	38.1	29	28.1	14	17.5	17	14.0
平年数	10		10		10		10	

6. ジャガイモヒゲナガアブラムシ(大豆)

発生量 並

予察ほの大豆における寄生虫数は、長沼町および訓子府町で平年並で、芽室町では平年よりやや少なかった。

予察ほの大豆におけるジャガイモヒゲナガアブラムシの寄生虫数

月・半旬	長沼町		芽室町		訓子府町	
	本年	平年	本年	平年	本年	平年
7月1半旬	1	2.9	2	2.5	4	3.8
2半旬	1	2.2	1	3.6	2	2.2
3半旬	1	0.7	2	5.3	1	3.3
4半旬	0	0.1	3	7.8	6	1.7
5半旬	0	0.6	0	4.6	0	1.0
6半旬	4	0	1	3.8	1	0.6
平年数	10		10		10	

注)25株2小葉、計50小葉の寄生虫数。

7. マメアブラムシ(小豆)

発生量 やや多

予察ほの小豆における寄生株率は、芽室町では上旬、訓子府町では下旬に平年を上回った。長沼町では一月を通して平年より低かった。

予察ほの小豆におけるマメアブラムシの寄生株率(%)

月・半旬	長沼町		芽室町		訓子府町	
	本年	平年	本年	平年	本年	平年
7月1半旬	8	16.4	44	17.5	0	5.8
2半旬	2	18.2	32	23.2	0	2.5
3半旬	2	17.6	12	22.0	8	7.6
4半旬	0	10.2	12	21.6	4	9.8
5半旬	0	4.9	4	15.2	20	9.8
6半旬	0	2.7	8	3.2	28	6.2
平年数	9		10		9	

E. ばれいしょ

1. 疫病 発生期 遅 発生量 やや少

予察ほの「とうや」における初発期は、北斗市では平年より早く、訓子府町では平年よりやや遅く、芽室町では平年より遅かった。長沼町では発生が認められていない。発生量は北斗市では平年より少なく、芽室町では平年よりやや少なく、訓子府町では平年並であった。

一般ほにおける巡回調査の報告によると檜山、オホーツク地方で7月3半旬から発生が認められ、7月6半旬には十勝、根室地方でも発生が認められた。

予察ほにおけるばれいしょの疫病初発期

地点	品種名	初発期		平年数
		本年	平年	
長沼町	とうや	未発生	7月18日	10
	スノーマーチ	未発生	7月22日	10
北斗市	とうや	6月6日	7月9日	10
芽室町	とうや	7月18日	7月9日	10
	男爵薯	7月20日	7月10日	10
	スノーマーチ	7月22日	7月9日	10
	紅丸	7月22日	7月11日	10
訓子府町	とうや	7月16日	7月13日	10
	スノーマーチ	7月16日	7月14日	10

予察ほにおけるばれいしょの疫病発生状況

地点	品種名	発病度											
		7月1半旬		7月2半旬		7月3半旬		7月4半旬		7月5半旬		7月6半旬	
		本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年
長沼町	とうや	0	0	0	0.2	0	0.7	0	4.0	0	18.5	0	40.1
	スノーマーチ	0	0	0	0.1	0	0.9	0	4.3	0	13.4	0	34.0
北斗市	とうや	0	7.8	0	14.0	0	34.8	-	48.7	-	55.5	-	60.6
芽室町	とうや	0	0.7	0	3.5	0	13.0	0.5	31.2	4.0	62.6	29.0	88.7
	男爵薯	0	1.6	0	7.3	0	19.0	8.5	37.9	30.0	74.2	99.0	89.5
	スノーマーチ	0	2.1	0	4.3	0	13.7	0	25.7	4.5	52.3	36.0	81.1
	紅丸	0	1.9	0	5.6	0	14.2	0	34.1	13.5	61.3	46.5	85.4
訓子府町	とうや	0	0.1	0	2.9	0	6.4	8.5	13.9	37.0	26.8	77.0	48.4
	スノーマーチ	0	0.1	0	2.2	0	4.3	2.5	10.6	18.5	19.0	54.5	40.7

注：-は他病害により調査不能

一般ほにおけるばれいしょの疫病巡回調査結果

普及センター		地点数	発病株率(%)				普及センター		地点数	発病株率(%)			
			7月3半旬		7月6半旬					7月3半旬		7月6半旬	
			本年	前年	本年	前年				本年	前年	本年	前年
空知	南東部	1	0	0	0	0	網走	本所	6	0	0	0	0.2
後志	本所	4	0	0	0	0		清里	3	0	0	0	0
胆振	本所	2	0	0.5	0	0		網走	2	1.0	0	10.5	5.5
渡島	本所	2	0	0	0	0		美幌	2	0	0	0	0
檜山	本所	2	16.3	10.0	30.0	10.0	十勝	本所	5	0	0	0	0
	北部	4	2.8	3.8	8.8	3.8		東部	6	0	0.3	0.7	2.8
上川	富良野	3	0	0	0	0		東北部	1	0	0	0	0
	大雪	3	0	0	0	0		北部	3	0	0.3	0.3	0.3
	士別	1	0	0	0	0		西部	3	0	1.7	0.7	0.3
	名寄	1	0	0	0	4.0		南部	3	0	6.7	1.0	0
							釧路	本所	4	0	0	0	0
							根室	北根室	3	0	0.3	0.3	0.3

2. アブラムシ類 発生量 少

予察ほにおけるジャガイモヒゲナガアブラムシの発生量は、いずれの地点においても平年より少なかった。ワタアブラムシの発生量は、長沼町で平年より少なかった。芽室町および訓子府町では寄生が認められなかった。モモアカアブラムシは、いずれの地点においても寄生が確認されなかった。

一般ほにおける7月6半旬の巡回調査によると、20複葉当たり20頭の寄生数を超えたのは調査66地点のうち渡島地方の1地点（ワタアブラムシ主体）のみであった。

予察ほにおけるアブラムシ類の発生状況

月・半旬	ジャガイモヒゲナガアブラムシ						ワタアブラムシ					
	長沼町		芽室町		訓子府町		長沼町		芽室町		訓子府町	
	本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年
7月1半旬	0.5	1.9	0	2.7	1.5	8.4	0	3.4	0	0.2	0	6.9
2半旬	0	1.4	0	4.9	1	11.2	0	7.0	0	0.6	0	8.2
3半旬	0	0.8	1	6.9	2.5	10.0	2.5	12.3	0	0.1	0	13.9
4半旬	0	0.6	0	6.7	1	4.8	1	16.4	0	0.3	0	22.3
5半旬	0.5	0.3	1.5	4.7	1.5	3.1	2	8.9	0	0.9	0	44.0
6半旬	0	0.4	0.5	2.1	0	3.1	0	3.0	0	0.4	0	33.7
平年数	10		10		10		10		10		10	

注) 20株各2複葉、合計40複葉を調査。虫数は10株20複葉あたり換算虫数。品種は「スノーマーチ」

巡回調査によるばれいしょのアブラムシ類寄生虫数

普及 センター	地点 数	7月3半旬		7月6半旬		本年優占種
		本年	前年	本年	前年	
空知	南東部	1	0	0	0	
後志	本所	4	0.5	0.5	0.3	モモアカ、ワタ
胆振	本所	2	4	1	2	
渡島	本所	2	0	0.5	19	ワタ
檜山	本所	4	0	0	0	
	北部	4	0	0	4.5	ワタ
上川	富良野	3	0	0	0	
	大雪	3	2	0.3	0.3	モモアカ
	士別	1	0	0	0	6
	名寄	1	0	0	1	モモアカ
網走	本所	6	0.7	1.2	1	ヒゲナガ、モモアカ、ワタ
	清里	5	0.2	3.3	0.4	23
	網走	2	0.5	1	0	9
	美幌	2	0	0	0	2
十勝	本所	5	0.2	0.2	0.2	0
	東部	6	0.2	0.3	0.2	7
	東北部	1	1	0	0	0
	北部	3	0	2	0	0
	西部	3	0.7	0	0.3	13.7
	南部	3	0	1	0	0.3
釧路	本所	2	0	0	0	1.5
根室	北根室	3	1	0	0	0

注1) 10株20複葉調査

注2) ヒゲナガ: ジャガイモヒゲナガアブラムシ、ワタ: ワタアブラムシ、モモアカ: モモアカアブラムシ

F. てんさい

1. 褐斑病 発生期 やや遅 発生量 やや少

予察ほにおける初発期は、芽室町で平年より早く、訓子府町ではやや遅く、長沼町では平年より遅かった。
発生量は長沼町、訓子府町で平年より少なく、芽室町では平年並であった。

一般ほにおける巡回調査の報告によると、胆振、上川、オホーツク、十勝地方で発生が認められた。

予察ほにおけるてんさいの褐斑病発生状況

地点	品種名	初発期		発病度						平年数
				7月2半旬		7月4半旬		7月6半旬		
		本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年	
長沼町	ライエン	7月19日	7月12日	0	0.4	0.4	1.6	0.8	4.4	4
	あまいぶき	7月22日	7月10日	0	0.9	0.4	2.8	1.2	11.0	9
芽室町	ライエン	6月26日	7月9日	0.8	3.4	2.0	4.1	7.6	7.8	4
	あまいぶき	6月26日	7月11日	0.4	2.0	2.4	3.5	12.4	12.6	7
	スタウト	7月4日	7月14日	0.4	2.1	0.4	3.3	8.4	3.3	8
訓子府町	リッカ	7月16日	7月11日	0	0.7	0.4	2.6	0.4	8.9	10

一般ほにおけるてんさいの褐斑病巡回調査結果

普及センター		地点数	発病株率(%)				普及センター	地点数	発病株率(%)				
			7月3半旬		7月6半旬				7月3半旬		7月6半旬		
			本年	前年	本年	前年			本年	前年	本年	前年	
空知	南東部	1	0	1.0	0	1.0	網走	本所	10	0	0.4	0	1.1
石狩	本所	4	0	0	0	7.0		清里	5	0	0	0	0
後志	本所	3	0	0	0	0		網走	2	0	0	0	0
胆振	本所	4	0	2.3	0.5	4.8		美幌	5	0.4	0	0.2	0.8
	東胆振	3	0	5.0	1.3	2.7		遠軽	9	0.1	3.4	0.4	4.2
上川	富良野	3	0	0	0	0	十勝	本所	5	0.2	0.8	0.8	0.8
	大雪	3	0	1.7	0	2.3		東部	6	0	0.8	0	0.3
	士別	2	2.0	0	2.0	0		東北部	4	0	0.5	0	1.3
	名寄	1	0	0	4.0	0		北部	3	0	0	0.3	0
西部								3	0	1.7	0	0	
								南部	3	0	0.7	0	0

2. ヨトウガ(第1回) 発生量 並

<6月12日付け注意報第4号>

予察ほにおける卵塊数は、長沼町で平年より多かった。芽室町、訓子府町では卵塊が確認されなかった。食害程度は、長沼町で平年よりやや高く、芽室町および訓子府町で平年並だった。

一般ほにおける7月3半旬の巡回調査によると、被害株率が50%以上となったのは調査79地点のうち十勝地方の1地点であった。

予察ほにおけるヨトウガの卵塊数および食害程度

月・半旬	卵塊数(50株あたり)						食害程度					
	長沼町		芽室町		訓子府町		長沼町		芽室町		訓子府町	
	本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年
7月1半旬	2	0.5	0	0.8	0	0.1	44.7	26.1	20	9.6	0	2.9
2半旬	2	0.3	0	0.2	0	0	53	38.6	28	14.6	2	7.0
3半旬	2	0.3	0	0	0	0	61.5	47.4	31	21.4	9	12.1
4半旬	0	0.2	0	0	0	0	71	57.3	32	27.2	14	18.3
5半旬	0	0	0	0	0	0	79	60.2	37	30.4	16	24.0
6半旬	3	0	0	0.1	0	0	86	61.2	36	33.1	20	29.1
平年数	10		10		10		10		10		10	

巡回調査によるてんさいのヨトウガ被害株率および食害程度

普及センター		地点数	被害株率(%)		食害程度	
			7月3半旬		7月6半旬	
			本年	前年	本年	前年
空知	南東部	1	10.0	4.0	3.0	2.0
石狩	本所	4	8.5	12.0	2.4	5.0
後志	本所	3	10.7	47.3	17.7	39.3
胆振	本所	4	7.5	3.8	4.8	4.4
	東胆振	3	15.7	13.0	8.0	9.7
上川	富良野	3	6.3	20.0	6.0	36.7
	大雪	3	10.0	8.0	7.0	2.3
	士別	2	19.0	0	20.0	6.0
	名寄	1	0	59.0	2.0	32.5

普及センター		地点数	被害株率(%)		食害程度	
			7月3半旬		7月6半旬	
			本年	前年	本年	前年
網走	本所	10	4.8	13.2	4.6	14.1
	清里	5	0.8	7.0	2.7	2.0
	網走	2	7.0	8.0	10.0	1.0
	美幌	5	6.2	0	4.4	0.6
	遠軽	9	10.9	31.8	11.2	9.6
十勝	本所	5	14.8	2.0	3.0	0
	東部	6	17.7	-	5.2	2.6
	東北部	4	6.8	4.5	10.5	2.8
	北部	3	0	0.7	0	0.7
	西部	3	8.7	2.2	1.3	9.3
	南部	3	0	0	0	0

G. たまねぎ

1. 白斑葉枯病 発生量 やや少

予察ほにおける発生量は、長沼町では平年よりやや少なく、訓子府町では平年並であった。
一般ほにおける巡回調査の報告によると、石狩、上川、オホーツク、十勝地方において発生が認められた。

予察ほにおけるたまねぎの白斑葉枯病発生状況

地点	品 種 名	発病度						平年数
		7月2半旬		7月4半旬		7月6半旬		
		本年	平年	本年	平年	本年	平年	
長沼町	北もみじ2000	12.0	36.6	38.0	50.7	70.0	73.6	9
訓子府町	北もみじ2000	3.5	6.5	5.5	13.3	30.0	22.0	7

一般ほにおけるたまねぎの白斑葉枯病巡回調査結果

普及センター		地点数	発病株率(%)			
			7月3半旬		7月6半旬	
			本年	前年	本年	前年
空知	本所	5	0	0	0	0.8
	南東部	3	0	14.7	0	66.7
	南西部	3	0	0	0	76.0
	中空知	1	0	6.0	0	47.2
石狩	北部	2	4.0	5.0	4.0	19.0

普及センター		地点数	発病株率(%)			
			7月3半旬		7月6半旬	
			本年	前年	本年	前年
上川	富良野	4	1.0	1.0	8.0	3.5
	士別	2	0	18.0	0	19.0
網走	本所	8	0.9	2.6	6.3	5.9
	美幌	4	2.5	2.5	4.8	4.5
	遠軽	3	0	0.7	0	2.0
十勝	東部	2	5.0	21.0	100	45.0

2. ネギアザミウマ 発生量 多

<6月 4日付け注意報第3号>

<7月 19日付け注意報第6号>

予察ほにおける寄生幼虫数は、長沼町で平年より多く、訓子府町では平年よりやや多かった。被害程度は、長沼町で平年より高く、訓子府町では平年よりやや高かった。

一般ほにおける7月6半旬の巡回調査によると、全調査37地点中で寄生株率が50%以上となったのは空知、石狩、網走および十勝地方の14地点であった。

予察ほにおけるネギアザミウマの発生状況

月・半旬	幼虫数(25株あたり)				被害程度			
	長沼町		訓子府町		長沼町		訓子府町	
	本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年
7月1半旬	249	271	2,889	1,388	71	25.8	100	57.2
2半旬	2,244	150	2,210	1,632	86	35.8	100	70.5
3半旬	659	370	1,964	1,838	98	42.2	100	81.7
4半旬	6,806	469	2,255	1,958	100	50.8	100	91.6
5半旬	-	508	1,844	1,751	100	58.1	100	94.8
6半旬	-	245	1,158	1,652	-	60.1	100	95.4
平年数	10		10		10		10	

注) -:倒伏により調査不能

巡回調査によるたまねぎのネギアザミウマ寄生株率(%)

普及センター		地点数	7月3半旬		7月6半旬	
			本年	前年	本年	前年
空知	本所	5	100	0	100	0
	南東部	3	43.3	0	29.7	4.0
	南西部	3	56.0	2.7	64.0	4.0
	中空知	1	72.0	0	76.0	0
石狩	北部	2	40.0	26.0	60.0	30.0

普及センター		地点数	7月3半旬		7月6半旬	
			本年	前年	本年	前年
上川	富良野	4	1.0	4.0	9.0	0
	士別	2	0	0	12.0	12.0
網走	本所	8	18.9	5.1	5.0	2.5
	美幌	4	37.0	1.0	36.0	1.0
	遠軽	3	52.0	2.7	69.0	4.0
十勝	東部	2	22.0	56.0	58.0	38.0

H. あぶらな科野菜

1. 軟腐病 発生量 やや少

予察ほ(だいこん)の春まき作型における発生量は平年よりやや少なかった。初夏まき作型では発生が認められていない。

予察ほにおける軟腐病発生状況

地点	作物名	品種名	作型	発病株率(%)						平年数
				7月2半旬		7月4半旬		7月6半旬		
				本年	平年	本年	平年	本年	平年	
長沼町	だいこん	おしん	春まき	0	0.2	0	0.7	1.2	2.1	10
		耐病総太り	初夏まき	－	－	0	0	0	0.5	10

注) -:調査時期外

2. モンシロチョウ 発生量 多

予察ほのキャベツにおける寄生幼虫数は、長沼町および北斗市で平年より多かった。

予察ほのキャベツにおけるモンシロチョウ幼虫の発生状況

月・半旬	長沼町		北斗市	
	本年	平年	本年	平年
7月1半旬	-	0.1	25	10.2
2半旬	71	12.2	24	27.2
3半旬	110	23.0	38	48.7
4半旬	124	49.9	42	42.3
5半旬	39	40.4	81	40.8
6半旬	0	31.6	60	14.7
平年数	10		10	

注) 10株あたりの寄生虫数。

3. コナガ 発生量 やや少

フェロモントラップによる成虫誘殺数は、芽室町で平年並、北斗市および訓子府町で平年よりやや少なく、長沼町、比布町および滝川市では平年より少なかった。予察ほのキャベツにおける寄生幼虫数は、長沼町で平年並、北斗市では平年より少なかった。

コナガのフェロモントラップによる誘殺数

月・半旬	長沼町		比布町		北斗市		芽室町		訓子府町		滝川市	
	本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年
7月1半旬	32	48.4	5	18.5	28	45.1	4	5.1	1	5.7	0	15.0
2半旬	55.2	92.9	3	23.5	47	34.5	3	5.9	0	6.1	0	16.3
3半旬	105.6	140.2	1	20.5	75	61.0	2	1.9	0	6.9	2	10.7
4半旬	61	144.4	3	8.8	32	63.1	2	3.7	1	5.5	3	27.0
5半旬	22	99.6	1	13.5	27	46.8	1	3.1	5	4.3	0	14.3
6半旬	29	108.5	5	9.0	51	68.6	9	1.2	11	4.2	0	9.3
平年数	10		4		10		10		10		6	

注) 設置場所はアブラナ科野菜ほ場近辺、比布町、芽室町はアブラナ科野菜以外のほ場近辺、訓子府町は雑草地

予察ほのキャベツにおけるコナガ幼虫の発生状況

月・半旬	長沼町		北斗市	
	本年	平年	本年	平年
7月1半旬	—	2.1	—	0.1
2半旬	10	8.0	0	1.8
3半旬	34	26.5	2	5.3
4半旬	59	61.1	4	10.3
5半旬	189	129.9	27	20.3
6半旬	27	120.3	32	78.6
平年数	10		10	

注) 10株あたりの寄生虫数。

I. りんご

1. 黒星病 発生量 やや多

<4月22日付け注意報第2号>

長沼町の予察園（無防除）での発生量は、「昂林」で平年より多く、「つがる」では平年並であった。余市町Cの予察園（慣行防除）では発生が認められた。余市町Bの予察園（慣行防除）においては発生が認められていない。一般園における巡回調査の報告によると、後志および渡島地方で発生が認められている。

長沼町の予察園（無防除）におけるりんごの黒星病発生状況

地点	品種名	発病度						平年数
		7月2半旬		7月4半旬		7月6半旬		
		本年	平年	本年	平年	本年	平年	
長沼町	昂林	17.5	7.5	35.8	11.1	49.1	15.7	10
	つがる	6.7	6.2	9.0	9.2	12.2	10.0	10

余市町の予察園（慣行防除）におけるりんごの黒星病発生状況

地点	品種名	病葉率(%)										平年数
		7月第1週		7月第2週		7月第3週		7月第4週		7月第5週		
		本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年	
余市町B	つがる	0	2.1	0	3.7	0	1.3	0	0.7	0	0.6	10
余市町C	王林	0	0.7	0.2	0.4	0	1.3	0	0.7	0	0.6	—

一般園におけるりんごの黒星病巡回調査結果

普及センター		地点数	病葉率(%)	
			7月3半旬	
			本年	前年
後志	北後志	3	0.2	11.0
胆振	本所	1	0	0
渡島	本所	4	2.5	13.1
留萌	南留萌	1	0	0

2. 斑点落葉病 発生量 やや少

長沼町の予察園（無防除）における発生量は新梢、徒長枝ともに平年よりやや少なかった。余市町の予察園（慣行防除）においては新梢で平年並の発生が認められた。一般園における巡回調査の報告によると、留萌地方の感受性品種（デリシャス系等）で発生が認められている。

長沼町の予察園（無防除）におけるりんごの斑点落葉病発生状況

地点 品種名	調査部位	病葉率(%)						平年数
		7月2半旬		7月4半旬		7月6半旬		
		本年	平年	本年	平年	本年	平年	
長沼町	新梢	1.1	1.4	1.8	2.4	1.1	3.4	9
王林	徒長枝	0	1.2	0	1.8	1.0	3.0	9

余市町の予察園（慣行防除）におけるりんごの斑点落葉病発生状況

地点 品種名	調査部位	病葉率(%)									
		7月第1週		7月第2週		7月第3週		7月第4週		7月第5週	
		本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年
余市町C	新梢	0	0.1	0	0.4	0.1	0.7	0.2	3.2	1.3	0.5
王林	徒長枝	0	0	0	0	0	0	0	0.8	0	0.6

一般園におけるりんごの斑点落葉病巡回調査結果

普及センター		地点数	病葉率(%)	
			7月3半旬	
			本年	前年
後志	北後志	3	0	0.7
胆振	本所	1	0	0
渡島	本所	1	0	1.3
留萌	南留萌	1	9.6	8.7

3. ハマキムシ類 発生量 やや少

予察園におけるフェロモントラップによるリンゴコカクモンハマキの誘殺数は、長沼町および余市町Aで平年より少なかった。余市町Bでは誘殺が認められなかった。

一般園におけるフェロモントラップによる誘殺数は、岩見沢市、壮瞥町および旭川市で平年並、石狩市および伊達市で平年よりやや少なく、札幌市および七飯町では平年より少なかった。

予察園におけるリンゴコカクモンハマキのフェロモントラップによる誘殺数

月・半旬	長沼町		余市町A		余市町B	
	本年	平年	本年	平年	本年	平年
7月1半旬	1.3	12.3	0.3	2.8	0	2.4
2半旬	3	7.3	0	0.6	0	1.7
3半旬	1	3.9	0	0.8	0	0.9
4半旬	0	2.6	0	0.8	0	1.1
5半旬	0	0.4	0	0.5	0	1.7
6半旬	0	0	0	1.0	0	0.8
平年数	10		10		10	

注) 余市町A、Bの予察園は慣行防除。

一般園におけるリンゴコカクモンハマキのフェロモントラップによる誘殺数

月・半旬	岩見沢市		札幌市		石狩市		伊達市		壮瞥町		七飯町		旭川市	
	本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年
7月1半旬	0.1	1.1	1.3	7.4	0	2.0	1.3	3.4	0.7	1.2	0.4	6.1	0	2.8
2半旬	0.5	0.6	0	3.9	1	1.0	1.5	2.2	0	0.4	0	4.1	1	0.6
3半旬	0	0.3	0	1.8	0	0.0	1.3	1.5	0	0.2	0.6	2.0	1	0.4
4半旬	0	0.1	0	1.0	0	0.5	0.3	1.7	0.6	0.1	0.4	1.1	1	0.4
5半旬	0	0.1	0.7	0.3	0	0.4	0	1.7	0.4	0.0	0	0.1	0.6	0
6半旬	0.3	0.1	0.3	0.2	0	0.1	0	0.5	0	0	0	0.3	0	0.5
平年数	10		10		8		10		10		10		8	

注) 岩見沢市の値は2地点の平均。

4. モモシンクイガ 発生量 やや多

予察園におけるフェロモントラップによる誘殺数は、長沼町では平年より多く、余市町AおよびBでは平年並だった。長沼町の予察園における産卵数は平年よりやや少なく、被害果率の上昇はやや遅かった。

一般園におけるフェロモントラップによる誘殺数は、札幌市および旭川市で平年より多く、岩見沢市および壮瞥町で平年よりやや多く、七飯町で平年並、伊達市では平年より少なかった。

巡回調査では、調査対象の6園地いずれにおいても産卵は確認されなかった。

予察園におけるモモシンクイガのフェロモントラップによる誘殺数、産卵数および被害果率

月・半旬	フェロモントラップ誘殺数						産卵数		被害果率(%)		
	長沼町		余市町A		余市町B		長沼町		長沼町		
	本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年
7月1半旬	30.3	27.3	6.4	14.2	17	18.6	8	26.5	0	0.1	
2半旬	32.8	48.0	10.1	15.9	16.3	22.5	17	86.7	0	2.2	
3半旬	79	36.6	19.3	18.6	15.7	25.7	45	144.1	1	11.7	
4半旬	219.4	35.9	24.4	22.0	25.4	32.1	74	206.2	19	39.7	
5半旬	190.7	41.1	23.7	31.1	28.7	40.5	114	185.7	62	65.9	
6半旬	101	86.1	23.7	45.0	37	58.9	113	127.8	89	84.7	
平年数	10		10		10		10		10		

注) 余市町A、Bの予察園は慣行防除。産卵数は100果あたりの卵数。

一般園におけるモモシンクイガのフェロモントラップによる誘殺数

月・半旬	岩見沢市		札幌市		伊達市		壮瞥町		七飯町		旭川市	
	本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年
7月1半旬	4.5	2.5	6.8	7.8	0.5	10.2	4.8	6.6	1.1	1	22	11.1
2半旬	7.5	5.7	0.8	12.5	1	17.8	5	7.6	0.6	2.3	54	16
3半旬	16.7	9.3	26.7	18.3	1.3	26.9	3.8	9.4	1.8	6.4	44	20.6
4半旬	21.1	12.6	38.5	17.4	5.4	27.8	15	7.4	5	16.3	82	22.8
5半旬	17.6	12.6	48.9	15.2	6.1	22.7	15.3	5.8	16.8	29.6	106	32.2
6半旬	24	16.2	75.3	15.7	10.5	23.4	13.6	5.4	70	62.7	54	42.6
平年数	10		10		10		10		10		10	

注) 岩見沢市の値は2地点の平均。

5. ハダニ類 発生量 並

予察園におけるリンゴハダニの発生量は、余市町Aで平年並であった。長沼町および余市町Bでは発生が認められなかった。ナミハダニの発生量は、余市町Aで平年より多く、余市町Bでは平年よりやや少なかった。長沼町では発生が認められなかった。

予察園におけるハダニ類成虫の発生状況

月・半旬	リンゴハダニ						ナミハダニ					
	長沼町		余市町A		余市町B		長沼町		余市町A		余市町B	
	本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年
7月1半旬	0	0.4	0	0.5	0	0.4	0	0	0	1.7	9	4.6
2半旬	0	0.4	0	1.4	0	0.4	0	0	1	2.9	1	3.3
3半旬	0	0.2	-	2.5	-	0	0	0.1	-	0.8	-	0
4半旬	0	0.8	0	0.3	0	1.7	0	0.6	7	6.9	0	6.8
5半旬	0	0.3	2	0	0	0	0	0	15	0.8	2	4.0
6半旬	0	0.4	1	0	0	2.1	0	0	24	1.6	0	6.2
平年数	10		10		10		10		10		10	

6. キンモンホソガ 発生量 並

予察園におけるフェロモントラップによる誘殺数は、余市町Bで平年より多く、長沼町および余市町Aでは平年並であった。被害葉率は、長沼町で平年より高く、余市町Aでは平年より低かった。余市町Bでは被害が認められなかった。

一般園におけるフェロモントラップによる誘殺数は、増毛町で平年より多く、札幌市では平年並、岩見沢市、石狩市、伊達市、壮瞥町、七飯町、旭川市では平年より少なかった。

予察園におけるキンモンホソガの被害葉率およびフェロモントラップによる誘殺数

月・半旬	フェロモントラップ誘殺数						被害葉率(%)					
	長沼町		余市町A		余市町B		長沼町		余市町A		余市町B	
	本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年
7月1半旬	3.3	7.0	52.3	91.9	96.4	61.9	1.2	0.3	0	0.0	0	0.0
2半旬	0.8	6.0	54.1	46.8	106.3	51.0	1.7	0.4	0	0	0	0
3半旬	5	6.4	25.0	55.6	37.1	33.5	5.3	0.3	-	0.1	-	0
4半旬	3	6.8	85.6	90.7	126.3	15.9	5	0.7	0	0.3	0	0.4
5半旬	5	4.8	102.4	48.9	347.4	19.5	3.4	2.6	0	1.3	0	1.2
6半旬	4	3.9	134.0	146.6	647.7	162.1	2.8	4.1	0.6	1.5	0.4	0.4
平年数	10		10		10		10		10		10	

注) 余市町A、Bの予察園は慣行防除。

一般園におけるキンモンホソガのフェロモントラップによる誘殺数

月・半旬	岩見沢市		札幌市		石狩市		伊達市		壮瞥町		七飯町		旭川市		増毛町	
	本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年
7月1半旬	8	126.9	2	0.8	2	32.4	0	3.5	3.3	84	46.1	126.5	0	3.5	271	16.5
2半旬	5.5	109.9	0	0.6	1	57.7	0.8	4.4	3.3	113	86.3	187.1	0	3.5	233	33.7
3半旬	2.5	85.4	0.8	0.9	3	68.6	1.9	3.0	0.6	106	25.8	161.2	0	1.1	218	38.3
4半旬	0.9	51.2	0.2	0.8	0	78.6	0.9	4.2	2.4	89	9.8	121.1	0	1.3	188	32.5
5半旬	1.1	36.5	0	0.4	0	59.9	0.4	4.0	3.1	59	7	66.2	0	0.5	160	24.8
6半旬	0.7	29.8	0	0.4	0	20.7	1.3	11.5	9.1	99	1.9	105.7	0	0.3	180	10.7
平年数	10		10		5		10		10		10		8		10	

注) 岩見沢市の値は2地点の平均。